

276

基督教の由來

ウイリヤム、ジヨージ、スミス著

東京

基督教書類會社

明治
26 12 22
内交

基督教の由來

目次

一 緒論 一

第 一 章 一

第 二 章 一

一 アブラハムよりヨセフに至る 三

第 三 章 三

一 モーゼ 一〇

第 四 章 一〇

一 イスラエル人埃及を出づ 一五

第 五 章 一五

明治
 廿六年十二月二十二日
 内交

THE FINDING OF THE INFANT MOSES IN THE RIVER NILE.



ふ拾に河ルイナをセーモ女王の及埃

一 紅海	二二二
第 六 章	二二二
一 逾越節の訓	二二八
第 七 章	二二八
一 曠野の練磨	三三六
第 八 章	三三六
一 キリストの光臨を望む	四五
第 九 章	四五
一 律法と預言者はキリストを俟て完きを致せり	五七

JOSEPH SOLD FOR A SLAVE BY HIS BROTHERS.



ヨセフは兄弟に賣られ、奴隷となす

基督教の由来

第一章 緒論

論

端午不挿艾難吃新小麥て此地今に至るまで端午の節會には戸毎に艾を懸くる習俗残りその起源を尋ぬるに今を去ると千年の昔叛賊黄巢と稱ふる者亂を起して例の謗言に據れば木百萬の生靈を殘殺し兇暴を極めける折しも一婦人ありて二兒を伴ひ難を避けんとしけるがその舉動巨魁の情を動かすものありけむ一束の艾を摘取り婦にいひけるは疾くおのが村に歸りて此を戸上に懸け心を安んじて家に在るべし我將卒に命じて必ず汝が家を侵すと勿らしめんと婦は急ぎ家に歸りて黄巢の教の如くし且つ近隣の者にも之に倣はんとを勧めたりかくて亂賊の一群この

村に攻寄せしが家毎に艾を懸けたるを見一戸も侵すことなくして已みぬこれ些細のことに似たれど村民が婦人の言に従ひて難を遁れしは賢としど云ふべし爾來星霜を経ると千年餘叛賊の虞絶えたりと雖今に遺風を傳へて當年の紀念とすといふ

黄巢の時は唐の代の末なりしがこれより二千五百有餘年の昔或日埃及の北にあたりて夥多の住民艾の束ならねど新に屠りし羔羊の血漿もてその住宅に記するに忙はしかりきこれまた旦夕に迫れる災禍を遁れんとての神符なりける此等の人は土着の埃及人にはあらでこの國人よりいたく壓制を蒙り迫害に遇ひていつしか奴隸の境に沈淪みしイスラエルといふ種族にしてもとよりこの樓家とて大かたは僅に雨露を凌ぐの茅舎に過ぎず羔羊の血漿を漉えし雲に木の葉を束ねて侵しこれを鴨居に懸ぎ兩側の門柱に塗りてその屠りし羊の肉は是を

燔きて啖ひ構へて一步も門外に出つるとなかりき去程にこの日も暮れ果てたれど將に起るべき一大事變を想ひて誰とて寝ねんとする者あらず今この事變の如何なるものなりしやを説くに先ち豫め埃及に於けるイスラエル人につきて少しく記すべき要あり

第一章 アブラハムよりヨセフに至る

「晩年生子謂之老蚌生珠」これ孔融が老後子を儲けし人のうえを謂ひたる言葉なり前章に述べたる流血式に先つと大凡四百年アブラハムといへる人にかゝる慶事ありて一家の歡喜をなしぬアブラハムはじめ神の命によりて故國を辭し埃及の北東なるカナンの地に移り住みぬアブラハムその妻サラとの間に子なし去れど神はアブラハムに約して老いたりと雖必ず一子を授け且つその後裔より一國民起りて

今は他の國なるカナンカナンの地を領するに至らしめんと誓ひ給ひぬ、ある夜蒼穹はれわたりに星斗闌干たるに神アブラハムに現れ告げ給ひけるは、大空を仰ぎて汝よく星斗を計へ盡し得るや、汝の子孫もまたかくの如くなるべしとアブラハムは神を信ずると篤かりければその嬌飾かきりあき信仰により神彼を目して義人と做玉へり、そもく信仰とは美舉びきよ徳行を生むとなき空理を謂ふには非ず、神に對する信仰は常に神に順ふとに據りて表示さるゝものなり、後年神アブラハムに約して曰く、汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし、汝我言に遵ひたるによりてありと

神は、長く約を履み給ふ期を延ばしてアブラハム夫妻の信仰と忍耐とを試み給ひし後二人の間に一子を授け給ふこれをイサクとす、イサクは父母の鍾愛を受くるに足るべき好兒なり、後イサク雙子を生むエ

サウヤコブこれなりヤコブまた順次に十二の兒の父となりぬ、十介の指頭長短あり十二兒の中ヨセフ最も善良にして賢明なり、錐を囊中に置く時はその尖立どころに見はる、とヨセフ俊秀の天資卓然として兄弟の間に超越せるいつまでかその鋭鋒を裹むとを得んや、それさへあるに父の寵愛わけて深かりければ兄弟の猜忌を招き彼を憎むと酷だしくかつて優しき言葉だにかけしとなかりき、ヨセフ十七歳の折ある日父彼に命ぞて遠く野に羊飼へる兄弟を視に遣はししとありけり、ヨセフはいと從順の子なりければ父が彼の爲にと裁ちし彩衣を纏ひて出てゆきぬ、これよりヨセフは又父の許に還るとあかりき、ヨセフの兄弟はヨセフの衣の血に染たるを持歸り父に云ひけるは、我等此を得たり、汝の子の衣なるや否やを知れ、と父これを見て悲しみ對へけるは、我子の衣なり、惡き獸彼を食へり、ヨセフは必ず裂かれたるならん、と

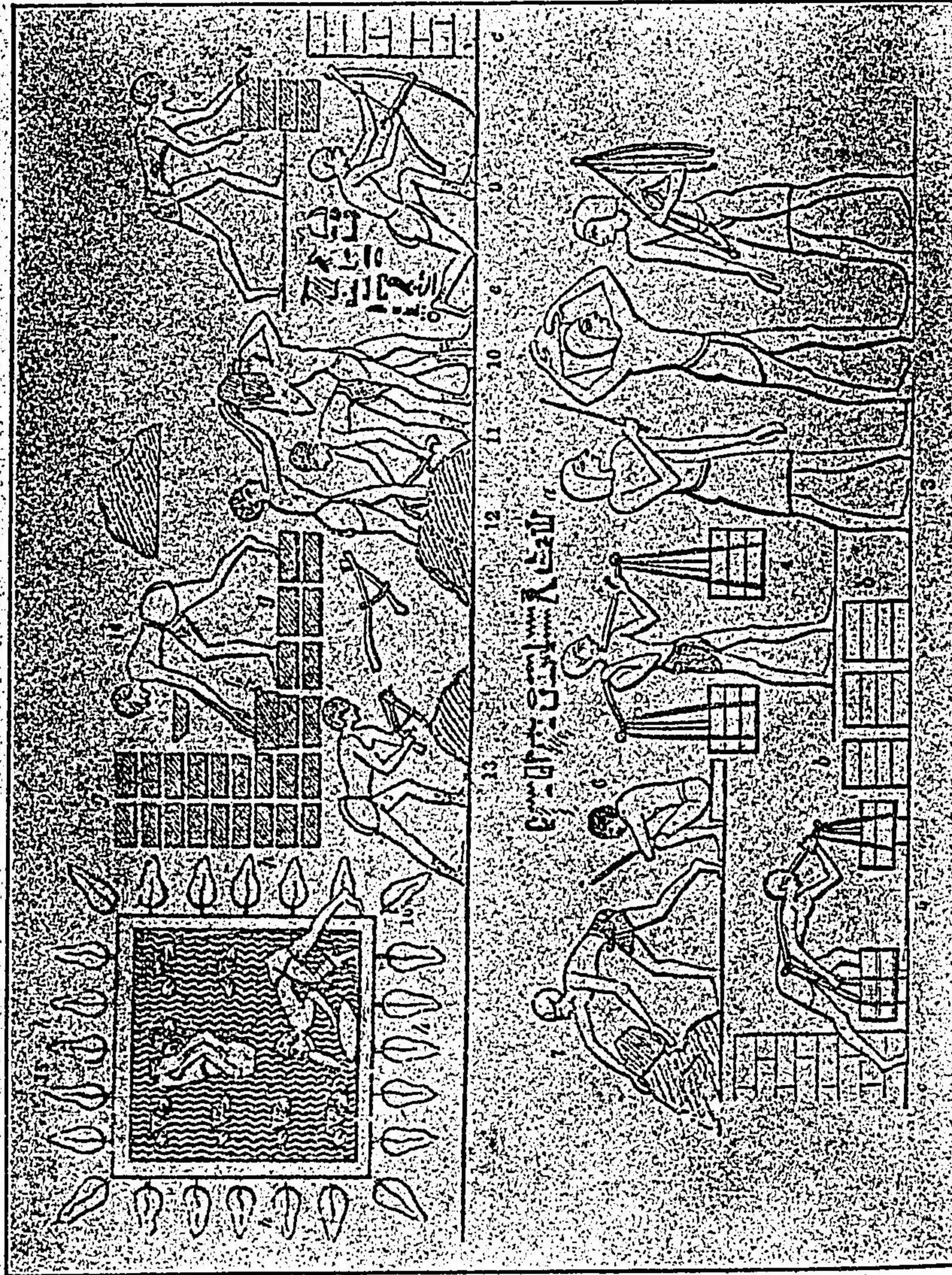
子女起ちて之を慰めんとすれどその甲斐なく我は歎きつゝ陰府に降りて我子の許に行かむといたくうち泣きぬ
 二十年は事なく過ぎつ爰に大飢饉をこりてヤコブの兒等穀物を購はんとて埃及に行くこととなりぬこれ埃及の地は豊饒にして之の時まで飢饉の影響を被らざりしゆへなり彼等家に歸るや父の前に驅け行き告ぐらくヨセフは尙ほ生きて埃及全國の宰となれりと父は之を聞きたれど信せざりければその心冷淡なりき去れどこは事實にしてこれによりてヨセフが不思議の閱歷明らかになりぬ幾年の昔ヨセフ野に兄達を見んとて出でゆきし時彼等は弟を捕へて殺さんとしけるが後埃及に赴く途次なるアラビヤの商人に奴隸として賣渡しつ父を欺かんとして山羊を屠りてその血にヨセフの衣を浸しぬヨセフは埃及の近衛指揮官ポテバルといふ人の手にわたりしが深く其の信用を贏け

て家令に擧げられ萬づを委ねらるゝに至れりヨセフ幼にして萬物の主宰なる唯一の眞の神を信ずるとを識り人の目には見えずとも竊に吾等を看守り心の奥秘までも透察し給ふ此神を信じきこの信仰ありければ奴隸に賣らるゝも毫も喪心するなく人となりて眉目秀麗漸く高貴き地位に進むも萬の誘惑に勝つとを得たりき去ば主の妻屋彼を挑みて罪を犯さんとを強ひしもヨセフは常に嚴然として我いかでこの大なる惡をなして神に罪を犯すとを得んやとて拒みぬこれを聞く者誰かまた揚震が四知の戒を想起さざらむある時夜陰に乗じて夥多の黄金を賂ふ者あり夜は暗し誰か知る者あらん請ふ之を納め給へとすゝむ揚震對へていふ天知る地知る予も亦知る何ぞ知る人なしといふやと遂に拒みて受けざりきこれ東西好一對の美談にあらずやこの後かの姪婦仇を報んとて言を構へてヨセフを讒しければ遂に罪なく

して獄舎に繋がる、身となりしも神の攝理により埃及王の心を惹く
 に至りその識力俊邁あるに感じて擧げて國の宰相としつ七年に亘り
 て絶えざりし飢饉に對するヨセフの處置の敏活なる外には埃及全土
 の感歎稱美する處となり内には二兒の生るゝありて一家の幸福を窮
 めぬ去ばヤコブの子等他國人に穀物の賣買を司れる此埃及の宰相の
 前にひれ伏せし時いかでかひかし虐待せし弟なるを知らんやされど
 ヨセフは能く之を知りぬ、かくて好きてだてを用ゐて舊惡を懺悔せし
 めし後心から彼等の殘忍なりし行ひを恕るしけりかくてヨセフの招
 きに應じて兄等は家族を率ゐ父を伴ひカナンの地を辭して暫く埃及
 に遷り棲みつヤコブとその長く失にきと想ひし愛兒との再會やいか
 なるべき父は唯だヨセフの頸を抱きてしばしはひた泣きに泣きふし
 ぬ

ヨセフ終に天壽を完ふして逝きぬされど彼が埃及に於ける高明の地
 位もその徳を傷ふとなくまたカナンの地はアブラハムの子孫がどこ
 しなへに住ふべき地なりとの神の約束を忘れしむるとなかりき、
 現し世の榮華は極むども神の聖旨に戻らぬとのみ心懸し人の臨終ど
 おなじほどの富貴榮達は得ながらもその心は一向に此世の事にのみ
 傾きし人の死期とを較べんはまことに世の教草ともなりぬべしむか
 し平清盛將に死なんとせしとき故舊親戚を聚めて謂けるは我れ位人
 臣を極めて帝の外祖となるまた遺憾とする所なし、たい恨むらくはい
 まだ頼朝の首級を見ずして死するとを、我死すとも我ために佛に供ふ
 ると勿れまた經をも誦すると勿れた、頼朝の頭を斬りて我墓前に懸
 くべしとヨセフの縁類に遺し、言葉は我死せん神必ず汝等を眷顧み
 汝等を此地より出してそのアブラハム、ヤコブに誓ひし地に到らしめ

MEN MAKING BRICKS (COPIED FROM AN ANCIENT EGYPTIAN MONUMENT.)



(圖つ古この及埃及)

作 転

む神は必ず汝等を省み給はん汝等我骨を此地より携へ上るべしと

第三章 モーゼ

ヨセフの死後ヤコブの子孫繁殖すると太だしかりければいつしか埃及人の厭忌を招くに至れりヤコブまたの名をイスラエルといふ故にその後裔は世にイスラエル人として知られ又た遠祖エベルの名をとりて希伯來人とも稱へぬ埃及王は代々パロの稱を帯びしが時を経るに従ひ一人のパロ即位して今將に一國民をなさんとするイスラエル人種を剿絶せんと企てぬパロの中には大建築家ありて磚石を用いて樓閣を築き堂宇を建て彫像を刻み又は埃及古代の金字塔方尖塔を築きしもありその多くは今に残りて世界の奇觀に數へられぬイスラエル人を奴隸の悲境に淪めし一パロは嚴命して彼等に磚を煉しめれたの

が爲に倉廩の市を起さしめぬ埃及古代の紀念碑に彫りつけし彫畫を
見ればいまに人をして當時イスラエル人が製磚場裡の苦役さては殘
忍なる工事長の管に備みしどのいかに酷しかりしかを忍ばしむ
イスラエルの民はかゝる羈絆に繋がれていと悲涙に咽びしものか
ら埃及人の虐遇愈々強きにつれその人口は益々増殖しつひにバロを
してイスラエル人に男子の生るゝものあれば悉くこれをナイルの流
に投せよと命ずるに至らしめぬ
ある日バロの娘浴せんとて河にゆきしが芦の叢に物あるを見訝し
みて一人の侍女を遣りて之をどらしめけるにこれぞ蘆にて編み水を透
さじとて漚青もて塗れる箱船なりけるこれを開きしに何を圖らん可
憫げなる一嬰兒の出でんとは見知らぬ人の様に嬰兒は俄に聲を揚
げて泣き出でつ王女は哀れがりてこれ希伯來人の子なりと云ふこの光

景をささよりうちまもり居たる一小女は此時すゝみて王女に云ひけるは我れ行きて希伯來の女の中より汝のために此子を養ふ乳母を呼ひ來らんかと希伯來の女一人伴ひ來りぬ王女婦にいふ此子を連れ行きて我ために之を養へ我其値を汝にとらせんとかくて小兒はいと壯健に生ひ立ちモーゼと呼ばれて王女の子となり此國の萬づの學藝を學びけり慈け深き王女はかの乳母を伴ひし敏き乙女は箱船にありし小兒の姉にしてその乳母こそやがて實の母なりしを知らざりきされど云はずや牝牛はその子を話め虎は口にて子を携ふと獸にも思愛の情はあるものをいかなればこの母はその兒を棄てたりけん抑この母は既に一女ミリアム一男アロンを擧げてまた第三子を儲け三月の程は隠匿しけるがはや裏みがたきを知りて之を先きの王女が見出しし、芦の裡に置き姉にさとして遠くよりその結局を窺はしめしなりけり、

モーゼは後世の孟子に似て母の教育に負ふ所多かりきモーゼの母は神を敬ふと深く夙くこの子の心に信念を注ぎて神はイスラエル人に將來必ず大なる恵を垂れ給はふとを信せしめしかば長ずるに及びてつひに王女の子と云はるゝを屑しとせず人ありてもし彼れのもど布伯來人に過ぎざるを諷するものあるも敢へて面に紅を潮して羞ぢ怕るゝとなく埃及人として顯位富貴を保たんよりむしろ神の殊恩に浴すべき種族として苦難を受くるの優れるを思ひてその希伯來人たるを揚言しぬ

モーゼ年四十に垂んとして、その滿腔の志は唯重荷に懐しめる灰心喪氣の愛國者を率ゐ自ら神に代りて彼等を困厄の裡より救出さんとするることなりき、ある日モーゼ親しくその同胞の苦役を觀んとてゆきしが一埃及人の希伯來人を鞭撻するを見て憤怒禁ずると能はず遂にこ

れを殺して砂中に埋めぬ、夫れ雷火を地に布く一閃の導火よく之が爆
 發を來たし民心すでに背反の念に充つるや一小事件もよく立ち一
 大暴動を誘致すべし「自由」の一響は已にモーゼによりて憂然として鳴
 りわたれりモーゼは四顧一盼イスラエル人の兵器を擁して身邊に圍
 繞すべきを期しぬ何ぞ知らん製磚場裏一人の起て之れに應ずる者な
 からんとは、かゝりしかば未だ志を果たさざるこの救世の志士は激怒
 せる帝王より死刑の宣告をうけ僅に身を以て埃及を遁れぬ
 埃及王死し太子位に即きしも父王の遺志を繼ぎてイスラエル人を虐
 遇するの政策を更めずさなきだにイスラエルの民はいまやその種族
 の裡自由の爲に旗擧げせんとせし只ひとり志士を失ひたればその
 行く末は只だ暗き狭霧につまされし如くなりきイスラエルの子孫は
 その勞役の故を以て歎き號びければその聲神に達して神はそのマツ

ラハム、イサク、ヤコブになし給へる約束を憶ひイスラエルの子孫を救
 はんとし給へり「知らずや暗き夜のいとも暗き時こそやがて曙にまぢ
 かり時なるを」

第四章 イスラエル人埃及を出づ

ひかし漢の劉備江海の志を懐きて覇業を天下に就さんとするや諸葛
 亮の賢を聞きゆきて之に帷幄の將たらんとを乞ふ渠れ南陽の草廬に
 高臥し悠々自適またいで、宮掖野宮に雜るの意なし、しかも劉備が三
 顧の知遇に感激しつひに起て丞相となり鴻圖に參與して殊功を樹て
 かの國の英雄に數へられぬその時を距ると數世紀の昔また一人の隠
 者巖窟の居を辭して濁世に出づる有り千載の偉蹟を青史に留めて漢
 將をして顔色を失はしめぬ

紅海の波濤北に盡くる處埃及と亞刺比亞とに介して荒蕪の一大境土
 横はれりその間名だたるシナイの山岳翠嶺として天を摩し翠巒青嶂
 これに連り延々として縦横に起伏し土地礧确岩石稜々として屹立す
 るもの多きもまた灰色白色の砂地數帯四方に開張して諸處に綠蔭の
 地をどいめ甘泉こゝに湧出し椰樹鬱蒼として叢生し灌木年草また青
 々として繁茂せるを見るその水路は夏季に至れば乾涸水を見ざるも
 偶々大雨霪然として至れば水嵩忽ち増加し奔流渦を卷きて水涯を没
 せんとす此處シナイ山下荒涼寂寞の境に棲居し遠く塵界を隔て冥想
 默思の生涯を送れる隱者ありその曠野の砂石を履むに慣れたる足は
 ひかし金殿玉樓の裡大理石の床を踏鳴しその群羊の咩き聲に傾くる
 の耳はかつて宮闕の裏聖僧碩儒の幽遠深遠なる談理に飽きたるもの
 なりき誰か知らんこの淋しき牧羊者こそやがて昔日埃及を逃れてこ

の寂寞の境に潜み亞刺比亞人イエテロの女を娶りそのために群羊を牧
 するモーゼその人からむとは

モーゼシナイの山麓静寂の野にありけるをり或日その風事は見えざ
 るもまさしく神の渠に語り玉ふを聞きぬモーゼ即ち履を脱ぎ頭を地
 に垂れて之を傾聽す神告げ玉わく「我は汝の父の神アブラハムの神ヤ
 コブの神なり我真に埃及に居る我民の苦患を視又彼等が其驅使者の
 故を以て號ふ所の聲を聞けり我彼等の發苦を知るされば來れ我汝を
 パロに使はし汝をして我民イスラエルの子孫を埃及より導き出さし
 めむ我知る埃及の王は假令能力ある手を加ふるも汝等の往くことを
 許さざるべし我即ち我手を舒べ埃及の中に諸々の奇跡を行ひて埃及
 を撃たん其後彼汝等を去らしむべし」と然るに曾て自ら同胞を救はん
 どせしモーゼは此時全く其念を斷ちたる折なりければ神の命に従ふ

ことを欲せず神の命を固辭しその訥辯にして大任に堪はず且つイス
 ラエルの人々は己れが神の命を蒙りたるを信せざるべしと言ひし
 かば神之に對へて曰ひ給はく人の口を造る者は誰なるや啞者聾者目
 明替者なぞを造る者は誰なるや我はエホバなるにあらずや然れば往
 け我汝の口にありて汝の言ふべきを教へんとモ一ゼ尙は肯ざりし
 かば神喜び給はずして言ひ給ひけるはレビ人アロンは汝の兄弟なる
 にあらずや我彼が言を善くするを知る彼をして汝の事を補けしめ汝
 に代りて民に語らしめん
 二人の兄弟は神の使命を帯びて埃及に下り王に謁してイスラエル人
 の埃及の地を去りて其神を拜することを許さんとを乞ふバロは之を
 擯け且つ彼等の深く神を信するを憎み驅使者をして却て益々重く驅
 使はしめイスラエルの民をしてモ一ゼアロンの語ることを聴くに違

なからしめたり是に於てイスラエルの子孫はモ一ゼを恨むこと甚し
 くモ一ゼは却て我等の苦しみを重くせんとしたりと云ふに至れり
 埃及王バロの心益々剛愎にしてイスラエルの子孫を苦しめしかば神
 遂に怒り給ひて埃及人に大なる禍を下し給ふに至れりナイル河の水
 は血に變じ蛙は群り來りて埃及人の家に入り蚤群りて人に着き畜に
 つき埃及の家は皆蝨充ち悪疫は家畜馬牛羊に加はり人の身體は皆な
 腫物を生ずるに至れり然るにバロの心は頑として動かざりき神モ一
 ゼをして更にバロに云はしめ給ひけるは吾民を去らしめ我れに事ふ
 ることを得せしめよ我此度我が諸々の災害を汝の心と汝の臣下及び
 汝の民に降し全地に我の如き者なきことを汝にしらしめん我若し我手
 を伸べ疫病を以て汝と汝の民を撃ちたらば汝は地より絶れしならん
 抑々汝を立てたるは即ち汝をして我權能を見さしめ我名を全地に傳

へしめんが爲めなり」と遂に神は雷と雹を遣り給ひ又火出で、地に馳す雹埃及全國に於て人と獸とを問はず凡て田圃に居る者を撃ち諸の蔬を撃ち野の樹を折りたりしかばバロ稍恐れてモーゼに向ひイスラエル人の出て、神を祭るとを許すべしと約せしが雹止み天晴るゝに及び復た其心剛愎になりてイスラエルの子孫を去らしめざり爰に於て神又蝗を下し玉へりその群地を蔽ひて人々地を見るとき能はず家を出づると能はざりきされどバロは未だその心を改めざるを以て神痛く怒り玉ひ遂に最も恐るべき最後の禍をバロ及びその有司の上を下し給ふに至れり久しく奴隸の苦しみを受けたるイスラエルの子孫は此時より初めて自由を得新なる生涯を開きければ時恰も年の第七月ありしを神は彼等に命じ此月を以て年の初の月と改めさせ給へり而して其月の十四日に至りイスラエルの戸々家々は各々羔羊を屠り

其血を戸の上に注ぎその肉を炙り食ひ且つ旅立の用意に餘念なかりき蓋し神彼等に向ひ「是夜我埃及の國を巡り人と畜とを論せず埃及の國の中の長子たる者を悉く打殺し又埃及の諸々の神に罰を蒙らせん我はエホバなり其血汝等が居る處の家にありて汝等の爲に記號とならん我血を見る時汝等を逾越すべし又埃及の國を撃つ時災汝等以下りて滅すとなかるべし」と云ひ玉ひければなり

此に於てモーゼイスラエルの長老を招きて羔羊を屠りて逾越節の準備をなさしめ且つ命じて曰けるは「牛膝草一束を取りて孟の血に濡し孟の血を門口の鴨居及び二旁の柱にそゝぐべし明朝にいたる迄汝等一人も家の戸を出るなかれ汝等此事を例として汝と汝等の子孫永く之を守るべし」と是に於てイスラエルの子孫は恭しく神を拜し出で、命せられたる如くなせり

爰にエホバ夜半に埃及の國の中の長子たる者を上は位に坐するパロの長子より下は牢獄にある俘虜の長子に至るまで盡く鞭ち給ふ亦家畜の首生も然り斯有かばパロとその諸の臣下及埃及人皆夜の中に起あがりて埃及に大なる號哭ありき死人なき家なかりければなりパロ即夜半にモーゼとアロンを召して言ひけるは汝等とイスラエルの子孫起て我民の中より出たり汝等が云へる如くに往きてエホバに事へよ亦汝等が言へる如く汝等の羊と牛を引きて去れ汝等又我を祝せよとイスラエルの民は去るに臨み金銀衣類をその殘忍なる舊主人に乞けるに埃及人は我等は皆死人なりと云ひて悉く之を與へたりかくて老弱男女六十餘萬のイスラエル人はヨセフの死期の語を守り其骨を携へ埃及を出で、カナンの地に向へりイスラエル人の住みし埃及の北部とシナイの荒野との間には紅海の淺き入江あり埃及を出でたる

大衆は此地方に向て進みたり神は此等の大衆を導きて常にその行先を指示し給へり神は常に空より晝は雲の柱を下し夜はその内部より光を放たしめて火の柱とあらしめて彼等を導き以て神の常に彼等と共に在ますとを示し給へり

第五章 紅海

鶏卵撞石頭一撞就流黃昔し一匹の猿あり死して後閻羅王の前に至り人間に生れんとを乞ふ閻羅王は之を聞きて云ひけるは汝人間に生れんとせば先汝の毛を抜き去らざるべからずとて即て一匹の鬼を呼びて先毛一本を抜かせたり然るに猿は其苦痛に堪はず泣き號びて止めんとを乞ふ閻羅大ひに笑ひ曰けるは斯の如くし汝如何で人間となることを得んやと此れ素より支那の寓言に過ぎずと雖も亦世に大志を

抱き乍ら鎖々の困難の爲めに忽ち屈する人を戒めたる諷刺たらずんばあらず

イスラエル人の去てカナンの地に向ふや埃及人の之を妨ぐるものなしと雖もその旅たる素より坦々たる行路を行くが如きものにあらず其苦しきは實に名状すべからざるものありきその能く安全にカナンの地に到るとを得しは全く神の加護に由る抑々初めて異域を旅行するの人はその案内者が常に正路を導かんとは願ひ得可きも常に坦路をのみ導かんとは望むも得べからざるとなり而して案内者を深く信するの人は道路の險阻に疲勞るゝとあるも必ず安全に目的地に達すべきを信じ心常に安かるべしされど絶えず案内者に不信不平を抱く人は僅かの苦しみにも忽ち倦み且つ恐怖と不安心の爲めに種々の煩惱を免れざるべし人の一生も亦斯の如し人世の長き旅路にありて神

を案内者とす人は常に純白なる信仰を有ちかりそめにも不信を懷き神に不平を抱くべからず而してイスラエルの民が屢々此の如き舉動ありしは歎かばしき次第にこそ夫れ信仰は勇氣を生じ勇氣は人の行を高尙おらしむ苟も勇氣なき人は地位富貴の身を飾るべきものありも亦探るに足らざるなり所謂鳳毛鷄膽事難成とはかゝる事を言へるなべるし埃及全國に於ける長子の死亡は國人の大なる恐怖を起しバロも遂に天地の主たる全能の神に逆ふとの誤りなることを覺るに至れりされどかの鐵は一たび熱に遇へば流動能く水の如くなるも熱去れば忽ち強硬の性に復するにあらずや剛復なる罪人も或は病に惱み或は危難に遭ふ時は能く罪を悔ひ神に訴へその恵を願ふと雖も一たび此等の痛苦去る時は忽ち以前の剛復に復るもの比々皆然らざるなし當時バロは素より凡て世の陽に神の法に従ひ陰に之を憎み之に背

くもの、心事に於けるも亦此の如し
 パロ已にイスラエルの子孫が埃及の地を去るを許したるも忽ちに
 して之を悔ひ即ち士卒に命じ戦車六百を以て之を追襲せしめたり
 前に紅海の漫々たるあり後に埃及大軍の急迫するあり而して只だ目
 前の危難に心奪はれたるイスラエル人はモーゼを省みてその彼等を
 説きて埃及を去らしめしを恨み罵り曰く「埃及に墓わらざるが爲に汝
 我等を携へ出し曠野に死しむるや何故に汝我等を埃及より導き出し
 斯く我に爲すや我等が埃及にて汝に告て我儕を棄て置き我儕をして
 埃及人に事へしめよと言し言は是ならずやそは曠野にて死するより
 も埃及人に事ふるは善ければなりされど神の命に順ふは是最も安全
 なる路なることを知るモーゼは絶叫して神に助を求め民等に向ひ曰
 ひけるは「汝儕恐るゝとなかれ立てエホバが今日汝等の爲に爲し給は

ん所の救を見よ汝等今日見たる埃及人をば重て復見ると絶てなかる
 べきなりエホバ汝等の爲に戦ひ給はん汝等は静まりて居るべし」と
 かくて終夜強き東風吹きて海水退き分れ海の底乾きたればイスラエ
 ルの民は其乾きたる處を安全に對岸に行くを得たり古への格言に「神
 は人を亡ぼし給ふ前に先づその人の理性を失はしむ」と云へるとあり
 イスラエル人を追及する埃及人は風浪怒濤の悉く神の聖意に出づる
 と神がイスラエル人の爲に此血路を開き給ひしことを悟らずして遂に
 愚にも死地に陥るに至れりパロの馬車騎兵は皆なイスラエル人を
 追尾して海底の乾きたる道に入りしが水は漸く兩側より迫り來り砂
 は漸く濕ひて其足を没するに至れり埃及人曰へらく「我儕イスラエル
 を離れて逃れん其はエホバ彼等の爲に埃及人と戦へばなり」とされど
 最早時已に遅く明方に及びければ海は本の勢に復りパロの馬車と騎

兵どを覆ひ一人も免るゝものあらざりきイスラエル人は埃及人の屍
海邊に漂ふを見エホバの爲し給へる業の大なるを感じ喜びに堪えず
即ち謠ふて曰く

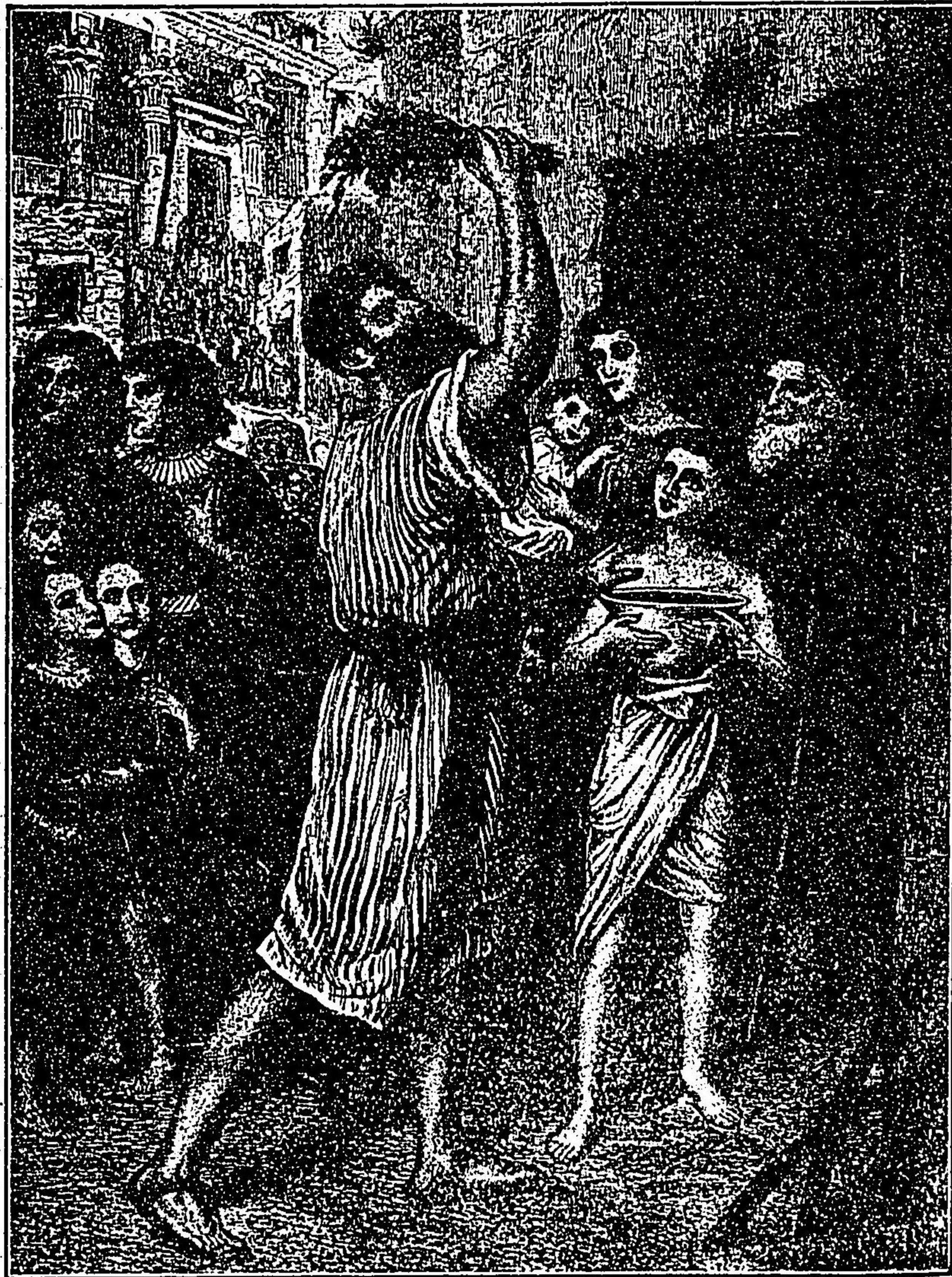
我エホバを歌ひ頌ん彼は高らかに高くいますなり彼は馬と其乗者
を海に擲ち玉へり我力我歌はエホバなり彼は我救拯となり給へり
彼は我神あり我之を頌美へん彼は我父の神なり我之を崇めん

第六章 逾越節の訓

神の格別に眷顧給へるイスラエル人の歴史を今章を追ふて述ぶるに
先ち彼等が埃及を出づるに當り又その曠野を逍遙するに當りて生じ
たる椿事の何物たるやを少しく述ぶべしそもく此等の椿事は單だ
一つの譚話又は寓言にあらずして歴史的の事實なり必須の眞理を示

さんとする神の聖意に由る至高の心意を彰さんが爲に用られたる
實物教訓なり今史上の一古事を借り實物教訓なるもの、善惡如何に
拘らず如何に價値あるものなるやを述ぶべし史に據ればむかしロー
マ王タークインはガビイと云ふ城市がその命を奉せざるを憤り之を
征服せんと欲せり其子セキスタスなるもの自ら父の暴虐に堪えずし
て國を亡命すと偽はりガビイに到りけるが漸く市民の望を得て後遂
に其の軍隊の指揮官となりぬ或時セキスタスは私かに使を父の許に
送り如何にせばよくガビイを服するを得べきやを問ひぬ王は何と
答ふる處なく使者と庭園を逍遙する折には絶えず其杖もて庭園にあ
る最も高き罌粟の頭を打ち續けたり使の者は數日滞在するも曾て返
答らしきとを聞かざるを以て遂にセキスタスの許に逃れ歸り有し次
第を逐一物語りぬ然るにセキスタスは忽ち父の意の中を解し即ガビ

THE SPRINKLING OF THE BLOOD OF THE LAMB BY
THE ISRAELITES IN EGYPT.



ぐ灑き血ちの羔ひに戸門か其人列色ヌ以てに及不埃チ

イの首頭等に冤罪を被せ或は戮殺し或は追放しぬ此に於てガビイは
 抗するに力なくセキスタス即ち之を父王に献じ遂に全くタークイン
 の領となりぬそれ使の者には何の意味もなき王の行爲もセキスタス
 に取ては深き意味あるものにして之に由り著大なる結果を生じたり
 蓋しセキスタスが父の意を解するに切なりしを以てなり已に述べた
 るイスラエル人の上に於ける椿事に對して世人は別に深意のその中
 に存するものなしとして輕々しく看過すもの多かるべし然ど心を專
 にして此出來事に關し聖書に啓示されたる神の企圖と目的とを研究
 する人は却て深き教への其中に存するを知るべし此は遠き古へよ
 り神の常に瞻望てイスラエル人を戒め世を警醒し給ひし處のものに
 して實に後來イエスキリストの降世を啓示すものなり眞に能くこの
 意を解したる人は即ち基督教の蘊秘を窺ふとを得べく譬へば多くの

合鍵を有して錠に向ふが如し世に琵琶湖の風景を稱賛る人多きも八景の美を審かに觀たる人にあらずんば眞に琵琶湖の風光を解する人とは云ひ難しされど神がイスラエル人に種々の前徴を下して彼等を遇し給へる事を各種の方面より觀察攻究する人こそ眞に能く神の愛子イエスキリストの人爲と其爲し給へる業とを解する人と謂ふも強ち誣言にあらざるべし

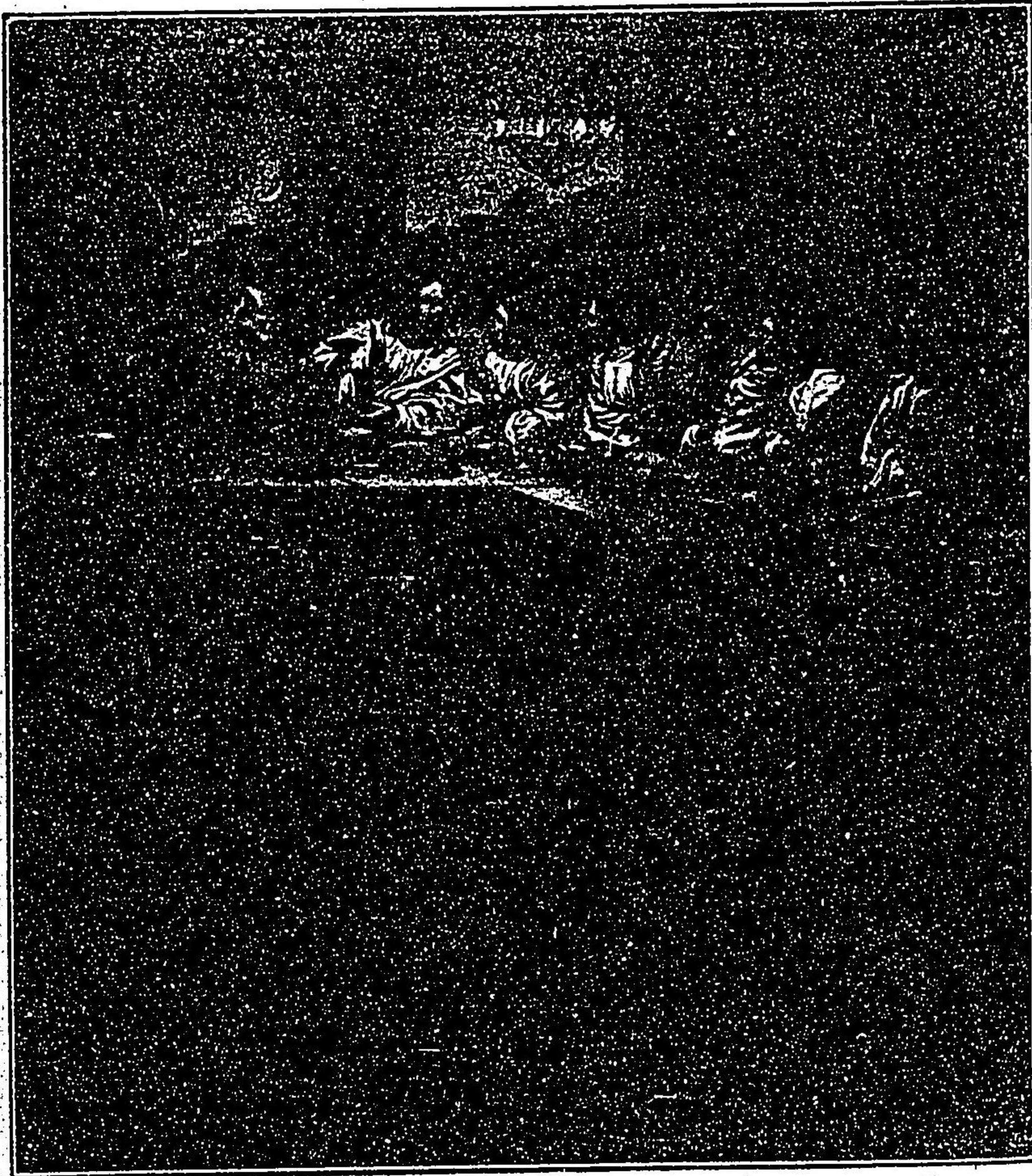
第四章に於て埃及の人々は神の恐るべき鞫を蒙りて其長子を失ひ而して只羔羊の血に護られたるイスラエルの家のみ之を免れたるを述べたり是れ所謂逾越節なり血を流すとは即ち滅ぶるの意にして羔羊の血家の上に注がれたる時は即ち一の生命が献供られたるを示すものなりイスラエルの民の家は悉く羔羊を屠り長子の代りとなしたれども埃及人の家には此の事あざりしかば其長子は悉く死を免

れざりき神に羔羊、羊、牝牛の犠牲を捧げその血を家の上に注ぎその肉の一部又は全部を炙りて祭壇に供ふるとは古き昔より行はれたり凡て動物の犠牲を献供ぐる人は皆自身の罪人たるを自白し神の律法を破りたる爲め鞫を蒙り死すべきとを自ら覺りたるものなりそもも動物の犠牲を献供ぐればとて人の罪は贖はるゝものにあらず而も尙之をなす所以は凡て後悔と信仰の念を以て供ふるものは神之を受け給ふが故なり是れ蓋し後に神の愛子イエスが人々の罪の爲めに十字架の上に死給ふに由り神の親ら備へ給へる眞の有犠牲あることを指示すものなればなり偕てキリストイエスが初めて福音を述べ傳へんとして野に下り給ひし時豫言者約翰は證をなして世の罪を任ふ神の羔羊を觀よと云へり(約、一、二九)

偕て埃及に在りしイスラエル人は羔羊の血を流したればとてその救

ひを得るに足れりと云ふ可らずその血を戸の上に注ぎ家の中に在りて血に護られ肉を食ひては身體の營養を得ると甚だ大切なり罪の贖を得んとも亦之に同じ只キリストが十字架の上に罪人のために死給ひしとて直ちに人々の罪は赦さるゝにあらずその恐しき果報を免るゝにもあらず深くキリストを信じてその流し給へる血によりて護られんとを希ひ己が身を擧げて神に任ねその心にキリストを宿すとを得に至りてこそ初めて眞に救はるべけれかくてこそキリストの聖靈人の心に入り導かれて新たなる人物となるを得べけれイエス曾て猶太人に云給ひけるは我肉を食ひ我血を飲むものは我に居り我もまた彼に居る我を食ふものも我に由て生く可し(約六、五六、五七)猶太人は神の命に従ひ逾越節を回想て年々之をなし怠らざりきイエス十字架に釘けられ給ふ前夜逾越節の宴に列なり弟子等と共に羔羊の肉を食

JESUS INSTITUTING THE LORD'S SUPPER WITH HIS DISCIPLES
IN JERUSALEM.



ふまたて立たを式の餐聖てめ創てにムレサルエ、スエイ

ひ給ひし後弟子等に「主の晩餐」と稱ふる新たな儀式を授け玉へり
 弟子等坐にありければイエスパンを取り神に謝し孽て彼等に予へて
 曰ひ給ひけるは「此は爾曹の爲に予ふる我身體あり我を記へんために
 之を行せ」路二二・一九又杯を取り謝して彼等に予へ曰ひ給ひけるは「爾
 曹皆此杯より飲め此れ新約の我血にして罪を赦さん」とて多くの人の
 ために流す處のものなり」太二六〇二八とキリストの死より甦り給ひ
 し以來凡そ基督教を信するものは主を拜せんが爲に一週の初の日
 は必ず相會してパンを食ひ葡萄酒を飲めり此れ此日は主の更生り給
 ひし日にして再び降臨給はん迄命を守り主の死を表彰さんが爲なり
 此風習は今日に至る迄傳はりて止むとなし不幸にして此單純なる儀
 式を誤解へて主の晩餐に於けるパンと葡萄酒は遂に實際キリストの
 肉と血とに變じたりと信する人あるに至りたるは歎かはしき次第な

りキリストのパンを擘きて弟子等に予へて曰給へる此れは我身體な
りとの語は弟子等もその表號的の語なるを理會たりかゝる比喩的
の言葉はキリストの屢々用ゐ給へる處にしてその「我は門なり若人我
より入らば救はれん」〔約十九〕と云ひ又我は葡萄樹汝は其枝なり人若し
我に居り我も亦彼に居らば多くの實を結ぶべし〔約十五五〕の如きも皆
同じく表號的の語ならざるはあし
以上述べたる處によりイスラエル人は羔羊の血によりて救はるゝに
至り初めて埃及人の羈絆を脱れ全く自由の身となりたるを知られり
世の人々もまたキリストの血によりて救はるゝに至り初めて罪の苦み
を免れ神の民となり自由を得べきなれイスラエルの民はその不知案
内の旅路に於ては常に案内者の力を願ひたれば神は雲の柱火の柱を
降し晝夜之を導き其の守護の力を示し給へり而して人生の永き族路

に於ても亦吾儕の爲に案内者を與へ給へりイエス會て曰く「我れは世の光なり我に従ふものは暗き中を行かず生の光を得るなり」と(約八。十二)

第七章 曠野の練磨

抑々ナイル河は埃及の住民に取りては一日も缺くと能はざる處のものにして彼等は渴く時は行きて飲み飢る時は行きて魚を食へり且つその年々の氾濫は土地を豊饒ならしむるを以て各種の植物到る處に繁茂せりイエラエル人は一たび埃及を出づると共に久しく日用の必需品を得し恵の源を失へり彼等は曠逸たるシナイの野にナイル河を携ふると能はずさりとて曠野に種播き收穫を得んとも望むべからずされば今は只だ信仰を以て今日も我等の日用の糧を與へ給へ」と神に

祈るの外詮方なかりき勢かくの如くなりしかば曠野の裡にて衆くの人々の爲に如何にせば能く食物を得べきやは忽ち一大問題となりぬ會て奴隷の苦と埃及軍勢の追及とを免れたる當時に在ては深く神を頌揚へたるイスラエル人は其後漸く信仰衰へ再びモーゼアロンを罵りて「我儕埃及の地に於て肉の鍋に坐り飽く迄パンを食ひし時エホバの手によりて死したらば善かりしものを汝等は此曠野に我儕を導き出して此の會衆を飢え死しめんとするか」出十六。三と云ふに至れり乍去曠野の中にかゝる有様に陥りたるイスラエル人は此に由りて二個の教を得たりその一は凡そ従順なるものは神必ず之を助け給ふとその二は凡そ人の力を以て排くと能はざる危難も天地を宰する神には微小き事にして神は種々の方法を以てその意を行ひ給ふとなり此時神モーゼに曰ひ給ひけるは「視よ我れパンを汝等の爲に天より降さ

人^{たみ}民^い出^いで、日^{にち}用^ちの分^{ぶん}を毎^{まい}日^{にち}歛^ちひべしと此^こより毎^{まい}朝^{あさ}地^ちの表^{おもて}に白^{しろ}き小^こさ
 き粒^{つぶ}の如^{ごと}きものあり炙^{あぶ}り又は煮^にる時^{とき}は食^{しょく}物^{ぶつ}となりて營^{えい}養^{やう}に適^{てき}せりイ
 スラエル人^{ひと}は之^{これ}をマナと稱^{なづ}へたり地^ちの霜^{しも}乾^{かわ}く時^{とき}は數^{あま}多^たのマナ地^ちにあ
 り太^{たい}陽^{やう}出^いで、地^ち上^{じやう}漸^{ぜん}く熱^{ねつ}を受^うくる時^{とき}は自^{おのづか}ら溶^とけ失^うせたり
 イスラエル人^{ひと}はかく價^{あたい}を拂^ははずして日^{にち}に、その糧^{かて}を獲^えて甚^{いた}く打^{うち}
 喜^{よろこ}び合^あへりその後^{のち}幾^{いく}多^たの歳^{とし}月^{つき}を經^へてイエスの時^{とき}に至^{いた}りイスラエルの
 後^し裔^{せん}なる猶^{なほ}太^{ユダヤ}人^{びと}曾^{かつ}てイエスに向^{むか}ひ汝^な果^{はた}して能^よく此^こくの如^{ごと}く天^{てん}より糧^{かて}
 を降^{くだ}し能^{あた}ふやと問^とひければキリスト^{キリスト}之^{これ}を聞^ききて彼^{かれ}等^らが靈^{れい}魂^{こん}上^{じやう}に必^{かなら}要^ん
 物^{もの}を求^{もと}むるとなくして却^{かへつ}て只^{ただ}肉^{にく}体^{たい}上^{じやう}の事^{こと}のみに思^{おも}ひを焦^こすとを譴^し責^かり
 又^{また}神^{かみ}がそのむかし曠^{あれた}野^のに於^おてイスラエル人^{ひと}に與^{あた}へ給^{たま}ひしマナは即^{すなは}ち
 他^{ほか}日^{にち}永^{なが}生^{なま}の糧^{かて}としてキリスト^{キリスト}を降^{くだ}し給^{たま}ふの豫^{しる}示^しなるを説^ときて尙
 曰^{いは}ひ給^{たま}ひけるは汝^な等^ら壞^{くわ}る糧^{かて}の爲^{ため}に勞^{はたら}かずして永^{なが}生^{なま}に至^{いた}る糧^{かて}即^{すなは}ち人^{ひと}の

子^この予^よる糧^{かて}の爲^{ため}に勞^{はたら}くべし我^{われ}は生^{いのち}命^{めい}のパン^{ぱん}あり我^{われ}に來^{きた}るものは飢^う
 ず我^{われ}を信^{しん}ずるものは恒^{つね}に渴^{かわ}くとなし汝^な等^らの先^{せん}祖^ぞは野^のにてマナを食^くひ
 しかと死^しねり我^{われ}は天^{てん}より降^{くだ}りし生^いけるパン^{ぱん}あり若^{もし}人^{ひと}此^こパン^{ぱん}を食^くは
 窮^{かき}なく生^いく可^べし我^{われ}が予^よふるパン^{ぱん}は我^{われ}肉^{にく}なり世^よの生^{いのち}命^{めい}の爲^{ため}に我^{われ}之^{これ}を賜^{たま}
 へん【約^{ヨハネ}六^の二七^の三五^の四九^の五一^の】

イスラエルの民^{たみ}等^らはマナ^{マナ}の賜^{たま}ひにより其^{その}飢^うを醫^いするを得^えしも間^まもな
 く水^{みづ}なき地^ちに來^{きた}り渴^{かわ}きに苦^{くる}しめり彼^{かれ}等^らは又^{また}モーゼ^{モーゼ}を罵^{のの}し、憤^{いら}り之^{これ}を石^{いし}
 もて撃^{うち}ち殺^{ころ}さんとせりモーゼ^{モーゼ}神^{かみ}に叫^なびければ神^{かみ}彼^{かれ}を導^{みち}きてインラエ
 ル^{インラエル}の長^{なが}老^{らう}等^らと近^{ちか}き邊^への岩^{いわ}に到^{いた}り杖^{つえ}にて之^{これ}を打^{うち}ち碎^{くだ}かしめ給^{たま}へりモー
 ゼ^{モーゼ}神^{かみ}の命^{いのち}の如^{ごと}くしければ堅^{かた}き岩^{いわ}碎^{くだ}け多^{おほ}くの^{おほ}水^{みづ}迸^{はな}り人^{ひと}々^々の渴^{かわ}きを醫^いしぬ
 打^{うち}ち碎^{くだ}かれたる岩^{いわ}より水^{みづ}流^{なが}れ出^いで、多^{おほ}くの^{おほ}人^{ひと}々^々の渴^{かわ}きを癒^いしたるとは
 マナ^{マナ}の天^{てん}より降^{くだ}りて人^{ひと}々^々の飢^うを救^{すく}ひたると同じ^{おな}じく共^{とも}に一^{いつ}の表^{ひら}號^{ごう}的^{てき}

神の業にして其の他日イエスキリストが十字架の上に死給ひて多くの人が永生を得るに至るを指示するものなりそれ水は時として深く地中にありて之を掘り又は罅隙を設けざれば外部に出でざるをり曾て地中海岸の英領ジブラタルの砲壘が長く重圍に陥りし水を得ると能はずして甚く苦しみたり然るに或日一士官の住する家の庭園に砲丸飛び來りその内にある岩に中りて之を粉碎きたり庭園は之が爲に甚く毀れたるも岩碎けたるが爲にその中より數多の水流出で兵士の苦しみを救ひたりと云ふとあり神が世の人々を愛し給ふとは久しく隠れて世に表はれざりさせられ途に人々に永生を得せしめんが爲に人々の罪の犠牲としてその愛子を下し給へりイエスの十字架に釘けられ給ふや一兵士は槍を以てその脇腹を刺したれば

血と水と流れ出たりかく人々の爲に救主を與へ給ふに由り神の大なる愛は明かに表彰されたりイエス在世の時或日行路の疲れに只ある井の傍に憩ひ給ひける折一人の婦人水汲まんどて來れりイエス婦に向ひ我に飲ませよと云ひ且つ曰く爾若し神の賜と我に飲ましめよと云ふ者の誰なるやを知らば爾我に求めん然らば活ける水を爾に予ふべし凡そ此水を飲む者は又渴かん然れど我與ふる活ける水を飲むものは永遠渴くとなし且我與ふる水は其中にて泉となりて湧き出で永生に至るべしと約四十、十三、十四

イスラエル人は曠野の炎熱と荒蕪との故を以て三たび嗚咽さしかば神は彼等を罰せんが爲めに火の蛇を遣はし給ひければ多くの人々咬まれて死したり彼等が或時は背き或時は脅かせしモーゼは又實に彼等が其難に遇ふ時の唯一の助力者にてありさせれば此時イスラエル

MOSES POINTING BITTEN ISRAELITES TO THE SERPENT OF BRASS.



モーセの銅の蛇を揚げて毒蛇に咬まれたる以色列人に示す

人は自ら罪人なるを覺りモーゼの許に來りて民と神との間に立ちて謝せんとを乞へりモーゼはその背義をも憤らず罵らずして勸解者となりて民の爲めに神に祈れり神即ちモーゼに言ひ給はく汝蛇を作り之を杆の上に載せ置くべし凡て咬まれたるものは之を仰ぎ觀なば生べしと(民二一八)モーゼ之に従ひ黄銅の蛇を作り之を杆の上に置きけるが蛇に咬まれたるもの之を仰ぎ觀る時は即ち生きたり此黄銅の蛇そのものは此を仰ぎ見る人々に善惡如何なる力を與ふるとを得るものにあらず咬まれたる人を癒やしたるは全く神の力なり神は是等の人々が能くその命に従ひ之を信じて杆の上の蛇を仰ぎ見たるを以て即ち力を下し給へりモーゼが作りたる黄銅の蛇は歴史上の奇物としてその後永く保存されしが星を重ね霜を経て宗教も稍々腐敗せる時代には人々之に向ひて香を焚くものあるに至れりかの罽の頭も信

心柄と云へる俚言もその起源は斯かるものやあらむその後賢明なる
王ヘゼキアは此馬鹿らしき偶像崇拜の本尊を見て甚く憤り賤しみて
二個の銅物にこそと云ひ其歴史上興味ある遺物なるに拘らず之を
毀ちたり

そもく蛇は其形人の忌怖をこそ招け人の尊重を受くるものにあらず然るに神は罪に死するイスラエル人を救はんとて黄銅の蛇を以てし給へり惟ふに初めて人間に死を與へたるは蛇なるを以てならむこの黄銅の蛇は其外形こそ恐しく忌避す可き眞の蛇に似たれ眞の蛇の如く有毒ならず此れによりて考ふる時は此は一種の實物教訓なるとを知る即ち罪ある人は世に死を來し罪なき人は世の濟渡と永生とを來す大切なる器なることを知るそれ人は皆アダムと稱ふる一の祖先より出づアダムは神初め潔きものに作り玉へりされど罪を犯した

るを以て其身と子孫は死を免れずとは聖書に「人皆罪を犯したり罪の價は死なり」羅三。二三。六。二三とあるが如しかく罪の害毒は已に深く人の心にあるを以て其有毒なる作用は人と共に到る處にありイエスは其の形こそ人間にして又人の子と呼ばれたれ實に罪なるもの全くこれあらざりき猶太の宰ニコデモ曾て神の國に就て教を乞ひける時イエスはニコデモをして古へのシナイの野に於ける黄銅の蛇の事を想ひ起さしめ且つ他日イエス自ら此故事の如く人の救主となりて十字架の上に釘けられんとを述べ給へり聖書に曰く「モーゼ野に蛇を擧げし如く人の子も擧げらるべし凡て之を信するものに亡ぶるとなくして永生を受けしめんが爲なり夫れ神は其生給へる獨り子を賜ふ程に世の人を愛し給へり此は凡て彼を信するものに亡ぶるとなくして永生を受けしめんが爲なり神の其子を世に遣はし給へるは世を

審判かんとにあらす彼に由りて世を救はんが爲めなり「約三。十四。十七

第八章 キリストの光臨を望む

支那の北方に於て河川の最も大なるものを黄河とす古への支那人は其滔々として海に注ぐを見て源の何れにあるやを疑ひつ天を仰ぎ銀河の空中に流るるを見思へらく黄河の源は蓋しこの天上の青白き流れにあらむと吾等は今日學問の力により銀河は只だ無數の星辰の一帶なることを知り得たるを以て此の思想は唯一笑に附すべきも而も昔し支那人が源を天に發して地上に流るる川ありと思ひし事柄今現に精神界裡嚴として存するものあるを見るかの世に涯りなく人の心に流れ到る處に其恩澤を貽せる道德的精神的感化の大流は滔々として

盡くる所なし而て吾等は其泉源を只天上に求めざるを得ず若夫櫻
 花爛熳たるの候向島に遊びたる人は必ず知らむ學生が休日の際し勢
 よく端艇を操りて隅田川を漕ぎ上るを或は帆裡滿々風を孕みて艫船
 の吾妻橋邊を下るを見ん而して此等の人は必又其下流の大川と稱し
 て海に注ぎ大船巨舶の漂々として處々に淀船せるを思ひ其上流は荒
 川と稱して兒童も能く涉り得べき細流なるを思はひ見るべし潺々
 たる極て小さき流より滔々たる大流に至る迄或は荒川と呼び隅田川
 と云ひ又は大川と稱するも皆これ一河の流なるを偕て吾輩は此比
 喩を本論に引用せん

第二章に於て神は世の人々に祝福を與へんと心に期し給ひしとを述
 べたり蓋アブラハムに約して汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得
 べしと誓ひ玉ひしを以てなりこの惠は浴ねく天下の民に傳播はるべ

きものなればその流決して大ならずと云ふを得ずされど此流はその
 源を人の心に發せず神の聖意より出たるものなるを以て其流るゝ所
 も亦神の豫じめ定め玉ひし處によらずんばあらず即アブラハムの子
 孫の上に流るべきものなりアブラハムは屢々現れ給へる唯一の神を
 信するの念愈厚くなるに従ひその品性は益高くなりてその神に敬虔
 なるとはかの楠正成が其君に忠なりしに優るものありき君の爲に家
 を去り死を省みざるは楠公の易しとなせし所にしてその子正行も亦
 父の遺訓によりて能く其身を君に捧げて誠忠を盡しぬアブラハムの
 神に於ける亦かくの如し神命じてその祖先以來の家を去れと云ひ給
 へば即ち去りその信仰と愛とを試みんとて獨子なるイサクを神に捧
 げて犠牲となすべしと云ひ給へば即ち喜んで之に従へりイサクの犠
 牲となりて將に死せんとするに當り神はアブラハムの信仰を識りて

之を止めしめ給へり
 アブラハムの品性をなしたる信仰は其子イサクヤコブに遺傳はりけるがヨセフに至りて更に燦爛たる光彩を放ちぬその淫婦の誘惑を斥け兄弟等の残忍酷薄に報ゆるに却つて愛を以てしたるが如き一に信仰の光りならざるはなしアブラハムの子孫は子々孫々世々代々活ける眞の神と云ふ觀念を傳へて誤るとなかりしが當時文化の發達最も盛なりし埃及人は賤しむべくも假冒の神を拜し牡牛を拜し鰐魚を拜し鳥を拜し甚しきは甲虫も尙拜するに足るとせり
 モーゼに至りては實に純白なる信仰と不撓の熱心とを有し汲々として民の安全と繁榮とを圖りて止まざりきその純潔なる愛國の精神は史上稀に見る處なり彼は富貴を貪らず官爵を希はず王者を望まず權威に媚びず弱者を虐げず事に當りて忍耐し政を執て直正に其の死に

至る迄能く民の爲に力を致せり他の國人は多くは古への英傑恩人を以て神と崇むるの悪習を免れざりしに獨りイスラエルの民のみ此弊に陥ゐらずして地上の最も高き山も天と較ぶる時は微少きものなるが如く世の英傑恩人も之を造り給へる神に比する時は極めて少きものなりと云ふ思想を保ち神の恐るべきことを知りたるは是れ皆モーゼの教導に由るものにあらずして何ぞや

イスラエルの民曠野にありし時モーゼは神の助力に由りて彼等の爲に宗教社交に關する日常必須の律法を定めたりイスラエル人は彼等に下されたる律法に従ふべきことを誓ひければ神即モーゼを勸解者として彼等に盟約を立て玉へり
 モーゼの律法はイスラエル人に正義の思想と風習とを起さしむるには甚だ善かりしも之を以て永久の律法とするの意にはあらざりき其

の底意は時未だ熟せざるを以て小時らく之を以て他日良法を布くの設備とするに外ならざりき當時イスラエル人の境遇は恰も先年日本が臺灣を新に領せし時其住民の文化の程度低くして未だ直ちに帝國憲法上の特權と義務とを悉く享有せしむると能はざりしを以て少時らく假りの法律を設けたるが如し凡て高き特權を得重き義務を負ふに至るには其間に永き過渡の時代あるを要す一時低き律法を希き文化の低き民を誘導くの功驗は他日此等の民が更に高等不易の法律制度に堪ゆるに至て現はるゝものなりされば當時モーゼの立法は法律の文字にも精神にも絶對に服従する人々には誠に能く其功を奏せり此律法によれば清淨の動物に限り之を食ふとを許し凡て屍に觸れ又は肉体上の汚行を戒しめ偶像を崇拜し穢汚なる國民と婚姻協同するを嚴禁せりイスラエル人は此律法に由りて活ける眞の神を認識す

る民は又必ず自ら淨き民たらざるべからざるを學びたり神嘗て宣はく我清き如く汝曹も清かれと他國の人々は種々の神を信仰せしがその人々も尙其信する神の貪婪詐欺殘忍あるとを認めたり昔し文化の發達比びなかりし希臘羅馬人の拜せし神は此種の神にして印度人が今日拜する神も亦實に此種の神なり然るに唯一の活ける眞の神に就ての聖書の證左に曰くエホバは其凡ての途に正しくその凡ての作爲に恵ふかし神は光なり少の暗處なし若し吾儕神と同心なりと言て暗きを行かば我儕が言どころは謊にして眞理を行ふに非ず詩百四十五十七約壹一五六)イスラエル人はその常に捧ぐる犠牲に由りて凡人は皆罪を犯したれば其命は之が爲に滅ぶべきものなるを覺れり而してその動物を屠り其身を犠牲とせんとするや彼等は以爲らく我儕の永く苦むべき罪は今動物に變化したれば之を殺して神に捧ぐる

時はその罪許さるべしと是れ即ち他日キリストが衆くの人の罪に代りて苦み給へる所以の教理を示す有力なる實物教訓たらずんばあらず

此處に當時イスラエル人の行ひたる種々の犠牲又は數多の宗教上の儀式等に就て詳しく述べんとはかゝる小冊子の能する處にあらず且つ此等の事は甚だ重大なる事なれば輕しく之を略説し去るべきものにあらず余は又イスラエル人の歴史を茲に詳しく述るとも略すべし希くば聖書に就き之を究められんとを故に是より述べんとする處も亦宜しく簡單ならざるべからず

埃及を出し人々の信仰冷かなりしかば神は彼等の中の老成人の悉く死する迄之を曠野の裡に滞在せ玉へりされば后にかのヨルダンの河を渡りて神がアブラハムに汝の子孫の國たるべしと約し給ひしかナ

川の地に到れる事は皆初め埃及を出でし人々の子孫の時に起りしとなりき之より先モーゼは年老て死したりしが死に至るまで勇氣も視方も衰へざりしモーゼの忠實なる助力者たりしヨシユアマモーゼに代りてイスラエル人を導きたりその後幾多の年月を経てイスラエル人は一の王國を建て都をエルサレムと稱へたりエルサレムは後一國宗教の中心となりて會堂高く天に聳え預言者の輩出するもの絶へざりき此等の預言者は或は民の漸やく偶像崇拜に墮落せむとするを叱責し或は犠牲を供ふるに敬心の之に伴はざるを咎めたり蓋し未だ罪に遠からず心の清からざるもの捧ぐる犠牲は神の前に價なきものなればなり神嘗て預言者イザヤをして語らしめて曰く此民は口を以て我に近づき口唇を以て我を敬へども其心は我に遠かれり(イザヤ二九〇一三)之より先き神はイスラエル人及異邦人の上に祝福を來す救

主を遣はさんとを預言者に由て屢々約し玉へり——異邦人とはイスラエル人以外の總ての民を總稱する名なり聖言に曰く汝我僕となりてヤコブの諸々の支流をれこしイスラエルの内の残りて全うせしものを歸らしむるとは最と輕し我又汝をたてし異邦人の光となし我救を地の極まで至らしむイザヤ四九六此救主は即世にメセア又はキリストと稱ふる所のものなり而してキリストと云ひメセアと云ふは共に膏を注がれたる者との意なり此救主の爲玉ふ事業はイザヤに由て宣べ傳へられたり曰くエホバは我に膏をそゝぎて貧きものに福音を述べ傳ふるを委ね我を遣はして心の傷める者を癒し俘囚にゆるしをつげ縛められたるものに解放を告げエホバの恵の年を告げしめ給ふなり(イザヤ六一・一二)

其後年月を経てイスラエル人は猶太人と呼ばれるに至れり蓋しヤコ

ブの子なるユダの後裔がイスラエル人の中にて最も優りしを以てなり而してその住む國の名もカナンと云はずしてシリヤ又はパルステンと云ふに至れり此住民の多くはパルステンに住みしが小亞細亞埃及希臘の都府に住むものも亦多かりき而して希臘の都府に住みたる人々は漸やくギリシヤ語を語るに至れりそもく聖書は初めは希伯來語にて記され後希臘語に翻譯されたり之より猶太人本來の言なる希伯來語を解せざる人々も聖書を讀むとを得るに至れり世に聖書は只だ學者のみ之を學ぶべく祈禱をなす時は常に普通の人の解し得ざる語もて爲べきものなりと誤信する人あるは愚の極みとこそ云ふべけれ猶太人も公然聖書を讀み且つ私かに之が熱心なる研究をなしたり故に當時彼等の生活の純潔なりしとと宗教上の觀念の高尙なりしとは他の多神教國民の上に嶄然たりき

さて此等の人々の所謂聖書とは即モーゼが記したる創世記に始まり
 キリスト降誕前大凡四百年前の頃に記されたる預言者マラキの書
 を以て終るものなり此等を總稱して舊約全書と云ひ以て其後に出た
 るキリストの生涯と教理とを記せる新約全書と區別せり
 夫れ古へよりイスラエルの王數多ありしと雖もその最も高貴くして
 勇に且つ最も善く民の心を收めたるものはダビデ王なり神はダビデ
 に告げて他日キリストをその直系の血屬より出し而もダビデが幼時
 住みたりしベテレヘムに降誕しめんと約し給へり神の立て給へる此
 の誓は普ねく傳はりたりさればダビデ死して千年の後猶太王へロデ
 はイエスの降誕を聞き痛く打ち驚きて祭司の長と民の學者とにキリ
 ストの生るべき地を尋ねける時彼等は問に應じて次の如く答へたり
 ユダヤのベテレヘムなり蓋は預言者の録されたる言に「ユダヤの地ベ

テレヘムよ爾はユダヤの郡中にて至小きものにあらず我イスラエルの
 民を牧ふべき君その中より出んと云へばなり』太二四五六とあれば
 なりとへロデ王は之を聞きてベテレヘムに兵を送りて二才以下の男
 兒を悉く殺さしめたり蓋し恰も此時イエスはベテレヘムに於てダビ
 デの後裔なる處女マリアの腹より生れ給ひしを以て此くしてイエス
 を失はんと欲せしものなり然れども之より先きイエスは夜に乗じて
 ベテレヘムを去りて埃及に伴はれ給ひしかば此暴王の殘忍なる計畫
 もその甲斐なかりき之よりイエスをキリストと信ずるユダヤ人等は
 皆イエスをダビデの子孫なりとて尊敬したり

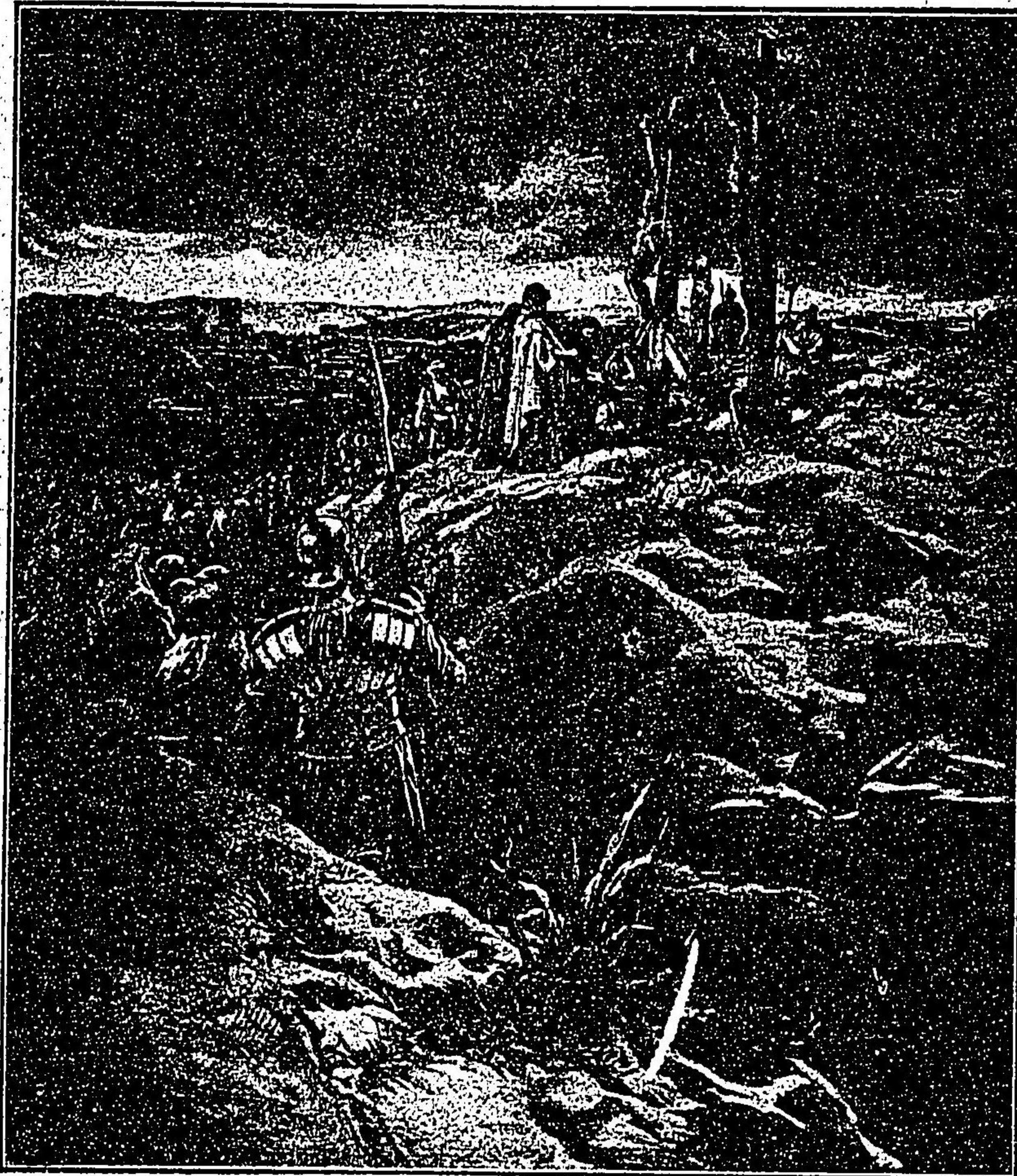
第九章 律法と預言者はキリストを俟て完きを致せり

今を距ると殆んど千九百年のむかしイエスはパレスチンに於て初め

て神の福音を述べ傳へ給へり時に敬心深く神の約し給へるメセアの降臨を望むと切なりし猶太人は悉くイエスに歸依せり蓋し當時キリストの如き教を説きキリストの如き行をなすもの會てあらざりき聖書の中に名高きピリポと云へる一人の猶太人キリストに遇ひて後嘗て其友ナタナエルの許に至りて言ひけるは我儕律法の中にモーゼが載せたる處預言者等の記しし所のものに遇へり約一四五と是等の人々漸くイエスの許に來り其弟子となるに及びてイエス會て弟子等に向ひ世の人々は我を以て何とかなすやと問ひ給ひければ彼等答へけるは世の人々は爾を以て古への有名なる預言者の再び世に顯はれたるものなりと云へり」とイエス更に曰く汝等我を言て誰となす乎とシモンペテロ答へけるは爾はキリスト活ける神の子なり太十六十五十六弟子等はイエスは神の約し給へるキリストあるとを能く信じたり

と雖も尙は常にキリストを以て只だ勝利赫々たる帝王の如く考ふるを免れざりき蓋し先に豫言者出でキリスト來りて王國を建つべし而して猶太の地より起る此王國は遂に全世界に擴がらんと言ひしを以てなりされば其王たるイエスが十字架に釘けられて死せんことを聞くや弟子等はいたく打ち驚きたり而して三日目に死より更生り給はんことを聞くに至ては彼等は殆んど之を解すると能はざりき豫言者が神の選び給へる僕出で痛く苦しみ遂に死に至らんとを言ひしとは一再にして足らざりしなり例ば豫言者イザヤの書に彼は我等の爲に傷けられ我等の不義の爲に碎かれ自ら懲罰を受けて我等に平安を與ふ其打れし痕によりて我儕は癒されたり我等は皆羊の如く迷ひて各々己が道に向ひ行けり然るにエホバは我等凡ての者の不義を彼の上に置き玉へり彼は己が靈魂を傾けて死に至らしめ懲あるもの

JESUS CRUCIFIED BETWEEN TWO ROBBERS OUTSIDE
THE CITY OF JERUSALEM.



るら釘に架か字に十に借と賊盗の人の二よスエイ

と共に數へられたればなり彼は多くの人の罪を負ひ愆あるものの爲
 に勸解をなせり「イザヤ五三〇五六十二」であるが如し當時人々はキリ
 ストに就き一方には光榮赫赫勝利を得給はんとの豫言と他の一方に
 は苦痛と死を受け給はんとの豫言とを聞きたく打ち惑ひたり
 人々はキリストの王國を建て給はんと云ふ有望なる預言は深く信じ
 たりと雖もその苦しみ給はんとの豫言は之を信せずして以爲らく此
 は他に深き意味ある豫言たるか左なくば他に豫言者出でて苦しみを
 受くべしキリスト自ら苦しみを受け給ふ如きとはこれなかるべしと
 故にイエスのエルサレムの地に入り熱心ある群集の「主の名に託りて
 来る王は福なり」と絶叫して之を迎ふるや弟子等は以爲らく勝利の日
 は近けりとして猶太の民等は以爲らくキリスト王の来るや必ずや
 武備嚴正數千の勇士猛卒を率ひ威風堂々たるものあらむと而してそ

の武備なく將卒なく弊衣素服僅かに數名の弟子を伴ひ來り給ふを見
るや彼等はいたく失望したり勢ひ此の如くなりしかばキリストの捕
はれて死を宣告され十字架の上に釘けられ給ふや弟子等の失望落魂
甚しく譬へば巍峩たる山嶺に登るの人忽ちにして黑暗々たる洞峽の
深底に墜落したるに異ならずさればキリストはその嘗て言給ひし如
く罪と死とに勝ちて死より更生り給ひつ弟子等が聖書を學ぶとの足
らずしてキリストの永久き勝利の曙光輝かん前には必ず短き暗夜あ
るとを覺らざるを叱り給ふて曰く豫言者の凡て言たる事を信する心
の遅き愚なる者よキリストは此等の難を受けてその榮光に入るべきに
あらずや路二四二五二六どかくて後キリストはモーセか書きたる最
初の書より凡ての豫言者の書の中にてキリストに關する事を悉く弟
子等に説き給へり而して弟子等に與へ給ひし最後の命令に曰く天の

うち地の上の凡ての權を我に賜れり此故に爾曹行きて萬國の民にバ
プテスマを施し之を父と子と聖靈の名に入て弟子とし且つ我凡て爾
曹に命せし言を守れど彼等に教へよそれ我は世の末まで常に爾曹と
共に在なりと(太二八。一八一。二〇)

かくて後キリストは弟子等の前にて肉躰のまゝ昇天し給へり一週日
の後に至り弟子等は悉く聖靈に感じて其精神上の活氣と聖書を會得
する力とは著しく増せり而して此より后彼等が猶太人に説く所は活
氣満々として敢て之と争ふと能はざる程に至れり

キリストの死より更生り給ひしとは争ふべからざる事實にして吾輩
は幾百の高潔なる猶太人にして當時之が證明をなせるものありしを
見る蓋し當時實際ありし事實なるを以てなりキリストを仇敵の如く
惡みたる祭司の長等はイエスの屍を葬りたる石櫃に衛兵を置きたり

しが第三日目に至り其墓の空虚となりしを見て弟子等も敵も甚だ驚
き合へり而も其后弟子等はキリストと對談をなせるとありしのみな
らず共に飲食したりき聖書に歌はれたる猶太人にして心の公正なる
人に取りてはキリスト更生の事實はその屢々聞きて久しく望みたる
キリストは眞の王にして救主なりとの豫言に對し無上の證左にてあ
りき祭司の長老等はイエスの事業その生涯その死その更生さては
彼等の以て神の作り給へるものなりと思へる聖書を細くに從て表は
るゝキリストに付ての記事を見て其争ふべからざる理論に屈し此上
は弟子等の堂々の議論を聞かざるやうなすの外詮なしとなし只管そ
の方法を求めたり彼等の初めイエスに死を宣告するやピラトの質問
にも耳を籍さずして只十字架に釘けよ十字架に釘けよと呼びたりし
がキリスト死し給ふも主の道は益々擴まり今また弟子等の賢明なる

THE DEATH OF STEPHEN, THE FIRST CHRISTIAN MARTYR,
AT JERUSALEM.



死のノバテス者々教々殉の初の最は

言論と清き行ひとに由て心に苦しみを感ずると甚しきを以て弟子等に命じてイエスの名を以て教を述べると勿れと言ひしが後之を捕へ或は打ち或は獄に投じ遂に之を殺さんとするに至れり
弟子の一人にしてステパノなるもの遂に石もて打ち殺されたり而して此れ實にキリスト信者に對する迫害の先驅にして此後キリストを信するものにしてエルサレムを追はれたるもの幾百千人の多きに上れり此等の追放されたる人々は到る處にイエスの教を傳へたりしかば信仰は愈々汎く傳はるに至れりステパノを苦しめし下手人の一人に年若きサウロと云へるものありき後にパウロと稱して能く人に知られたる人なり此人はその素行に惡むべきものなく又教育も不足する處なく且つモーゼの律法を守ると最も熱心にして愛國心甚だ強かりし而して何が故にかくの如き舉動ありしやと云ふに蓋し祖先傳來

の宗教風俗を變更するは教法に悖る者の行爲ありて憤怒せるに由
なりさて弟子等に對し殺氣と脅迫の心に満ちたるパウロはエルサレ
ムを去てスリヤの有名なる市ダマスカスに向へり是れダマスカスに
あるキリスト信者はその男たると女たるとを問はず之をエルサレム
に捕へ來り迫害を加へんが爲なり然るにパウロのエルサレムに歸る
やキリスト信者を鞭つ殘忍の人たらずして却て憐愍たる捕虜の一人
にてありき彼れダマスカスに至りいたく感ずる所あり遂に自ら信者
となりキリストの爲にその持てる總ての物を失ふも顧みず先きに滅
ぼさんど力めたる教を宣べ傳へて憚らざりきパウロ手に聖書を放た
ずダマスカスの民に説くにイエスは實に神の約し給へるメシアにし
て猶太人の凡ての希望の源なる所以を以てせり猶太人はパウロの明
晰なる證言に由ていたく其信仰を擾亂されれば彼を殺さんとし盡

PAUL, A PRISONER IN THE HANDS OF ROMAN SOLDIERS
AT JERUSALEM.

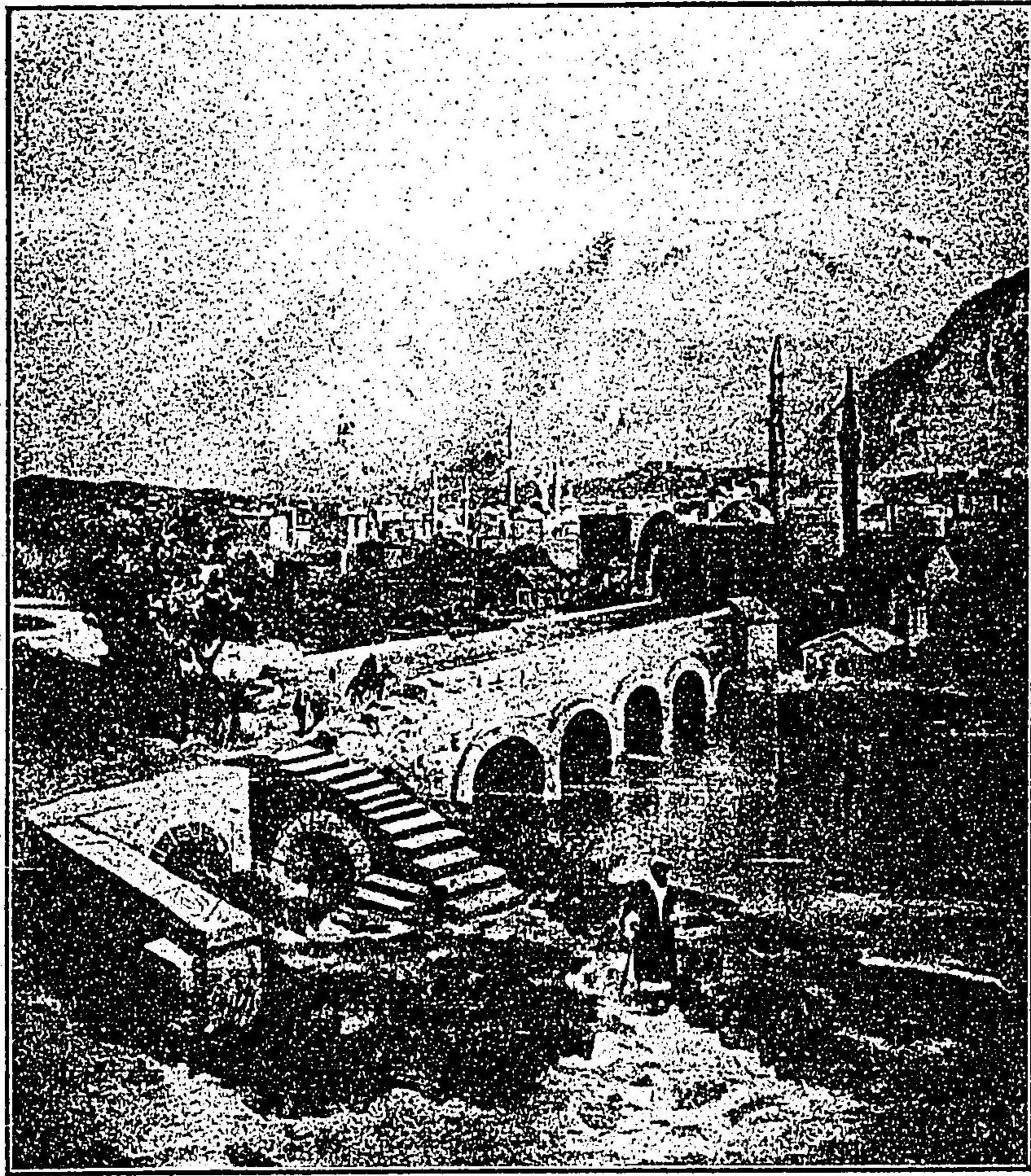


るらへ執に卒兵の馬羅てにムレサルエ、ロウバ

夜ダマスカスの城門の衛戍を嚴にしパウロを捕へんとせりパウロは
 或夜蔭に乘じ籠に乗り城壁を下りエルサレムに遁れ歸れり然るにエ
 ルサレムの猶太人も亦之を殺さんとせしかば又此地に留まるとを得
 ず是後は市と云はず國と云はず將た猶太人と異邦人とを問はず熱心
 に福音を述べて救ひの道は只神に向ひては悔ひ改め主イエスキリス
 トに對ひては信すべきとを諭したり而して彼は猶太人に罵らるゝと
 五たび笞打るゝと三たび石にて打たるゝと一度而して三度餓渴に苦
 み寒風に惱みしも福音を宣て屈せず而してその白髮の頭は遂に羅馬
 王子口の執政官の劔の露となる迄キリストの忠實無二の僕として神
 の爲に働きて息まざりき
 今試に例を動物に取らむ凡そ健全なる鳥は外殼の堅牢なる卵より孵
 化する而してこの堅き卵殻も時を經るに従ひて之を毀たざれば内にお

る雛は却て育たざり而かも漸く孵化時近づけば堅き殻もおのづから軟
かになり雛の發育を助くるやう備はりたるは豈天然の用意も周到な
らずや神がイスラエル人に授け給ひし律法はイスラエル人をして他
の國民と異り遙かに優勝の地位にあるものなることを覺らしめたり中
にも嚴格なる人々は猶太人にあらざる人と交り或は飲食するを欲
せざるに至れり若し此思想にして永く保続たらむには彼等は隣國民
の惡風に染まず偶像崇拜の汚穢を免れたるを得たりしならむも神
は猶太人と異邦人との間に城壁を設けて永く兩者を分つとを好み給
はず却て彼等を併合してキリスト信者の新國民を形成らむとし給へり
此に於てモーゼの勸解したる舊約は廢れキリストの勸解給へる新約
之に交替るに至れりさて再び卵の殻を引かむとれ卵の外殻が漸く軟
かくなるはやがて雛の孵化るの近づきたる證なり猶太人がパレスラ

ANTIOCH, A CITY IN WESTERN ASIA, WHERE THE NAME
"CHRISTIAN" WAS FIRST GIVEN TO BELIEVERS IN JESUS.



ケオレンア府と都の亞細亞西に
るらせ稱とンアテスリキてめ始は者信てに處と此

ンを出で諸國に散在するに至りたるは猶太の殖民地に於ける異邦人
 が猶太教を奉ずるに至りたるは實に新なるキリスト教國民が起る
 時の近づきたるを證明ものたらすんばあらず異邦人の信者は之を改
 宗者と稱へたり外國に散在せる猶太人と異邦人中の改宗者とはパ
 ステンにある猶太人の如き偏小なる思想と慣習とを有せざりしを以
 て之に由てキリスト教の傳播と此等の人々の團練が漸く神の宇内共
 同教會に歸一するの途は開かれたりされどイエスを眞のメシアと信
 じバプテスマを受けたる猶太人も尙モーゼの律法に泥みて初め神に
 受けし祖先傳來の制度を棄つるを厭ひたり是れ實に愚かなる考に
 して譬へば建築既に落成して未だ木閣を除くを知らざるもの如し
 パウロは聖靈の恵によりてかゝる愚かなる考に迷はず猶太人の中に
 卓然として恰も緑の野に一點の紅なるに似たりそれモーゼは賢き人

ありしと雖も未だキリストに及ばず舊約は善良なる故なりと雖も新約に如かず凡て物の形像を鑄造するに當てはその溶したる金の冷え固まる迄は之が模型を大切に保つと甚だ緊要なりもし誤て未だ冷え固まらざるに模型を壞たんかその金は遂に形像を成さずして終るべしされど一たび形像全く成り尙模型を保つとも新たに作られたる形像の美を蒙蔽の恐なき能はず

猶太の人々は以爲らく己等が特種の利益を有するはアブラハムの後裔たるが故なり故にモーゼの律法を守りなば神の祝福に漏るとなるべしとさればパウロは書を送りて曰ひけるはこの故に信仰による者はこれアブラハムの子なりと爾曹知るべし且聖書已に信仰に由りて神の異邦人を義と爲給ふとを豫じめ曉り先づ福音をアブラハムに傳へて諸國の民は爾に由て福を獲んと云へり是故に信仰に由るもの

は信仰ありしアブラハムと偕に福を受く信仰の來らざる先には我儕
 律法の下に拘幽られ且守られてその顯はれんとする信仰を俟てりか
 く律法は我儕をして信仰に由て義とせらるゝ事を得せしめんが爲に
 我儕をキリストに導く師傳となれり然れども今信仰已に來りたれば
 我儕最早師傳の下にあらず爾曹は皆キリストを信するに由り神の子
 となれりそは凡そバプテスマを受けてキリストに入る爾曹はキリス
 トを衣たるものなればなりもし爾曹キリストに屬するものならば爾
 曹はアブラハムの裔すなはち約束に循ひて嗣子たるなり」と(加三)
 そもく神の聖意より出でアブラハムの子孫を傳へ流るゝ福の流は
 キリストによりて更に其勢を加へたれば遂に全土の民悉く清くなり
 癒され死せるもの活さるゝとを知るに至るべしそれ大なる川は時とし
 ては數派に分派て航行するものは何れが本流にして何れが支流なる

やを知るに苦しむとあり猶太人の大部分はキリストに背きその僅少
 の人々が之を信じたる時に當りては何人もこの少數の人々こそ神の
 下し給へる福の本流に遠かりたるなれと思はん川の主流は時に極め
 て小さきとありと雖ども其流れ甚だ深きを以て之を測るの人は遂に
 は之に由て深々たる大洋に出づるを得べし然るに無智頑迷只だ河
 巾の廣さを見て之に由る人は遂に或は沼池に入り或は沙漠に至りて
 進退に苦しむに至るべし
 猶太の祭司の長を初め民等はキリストのメセアなるを拒みローマ
 のシーザーの外に王たるものなしと云ひしが四十年の後にその甚だ
 誤まれるとを覺りぬイエスは汚れたるエルサレムの市を悲みその終
 ひに滅亡の不幸に遇はんとを預言し給ふて曰く噫エルサレムよエル
 サレムよ預言者を殺し爾に遣はされし者を石にて撃ちたるものよ母

鶏の雛を翼の下に集むるが如く我爾の赤子を集めんと爲たると幾回ぞや而も爾曹之を欲ます爾の敵汝の周邊に壘を築き四方より圍み攻め爾どその中なる兒女を撃滅し石をも石の上に遺さざるの日來らむ是れ爾その眷顧み玉ふの時を知らざればなり」と路一三三四一九四三三四而してこの後遠からずしてこの事ありき紀元七十年に至りローマのウエスパン帝の子タイタス軍を率ゐてエルサレムを圍み人民を捕へその市を滅ぼせりその時城中にありて餓死を免れ又は幸に斬殺こどを逃れたるものも多くは捕はれて或は十字架に釘けられ或は奴隸に賣られたり今日の所謂猶太人と稱する人々も悉く世界の諸所に離散し到る所に人の輕侮と嫌忌とを受けその祖先等の戀々たりし故山の地を失ひ千八百年以來天下に漂泊流浪の民となりしは憐れむべきの次第ならずや此等猶太人も嘗て其祖先等が十字架に釘けた

るイエスをその救主と頼みその王と崇むるに至るの日將に近づかんとすその時に至てはエホバの榮光全世界に輝き渡りて其様宛然水の漾々として海を蔽ふが如くならむ(哈二一四)

主イエスキリストは世に王國を建てんが爲め自ら降り給ふべしこれに由て現世終りて新なる世始まるべし嘗て弟子等はエルサレムの上は降りむとする鞭をきキリストに問ふて何れの時この事あるや又爾の來る兆と世の末の兆は如何なるぞやと云ひければキリスト答て言ひ給ひけるは先づ多くの災害世に來り汝等も大なる患難と迫害とに遇はんされど此の内立ちて敬虔にして忍ぶものは天國に導かるべしまた天國の此福音を萬民に證せん爲に普ねく天下に宣傳へられむ然る後末期いたるべし電の東より出で西にまで閃くが如く人の子も來るべし……此故に爾曹の主いつの時來るかを知らざれば常に怠

らずして守れど(太二四〇一四二七四二)

基督教の由來大尾

明治三十六年十二月十九日印刷
明治三十六年十二月廿二日發行

著者

東京市麻布區廣尾町二番地

ウイリヤム、シヨージ、スミス

發行者

東京市赤坂區氷川町五番地

シヨージ、ブレスウエイト

印刷者

横濱市太田町五丁目八十七番地

村岡平吉

發行所

東京市京橋區明石町十七番地

基督教書類會社

印刷所

横濱市山下町八十一番地

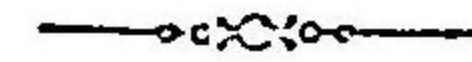
福音印刷合資會社

276

WHERE DOES CHRISTIANITY
COME FROM?

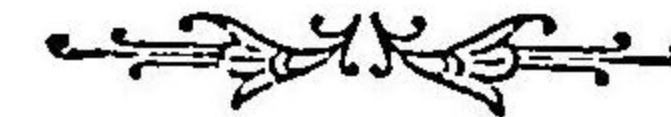
OR

THE OLD TESTAMENT
PREPARATION FOR THE NEW.



BY

William George Smith.



PUBLISHED

BY

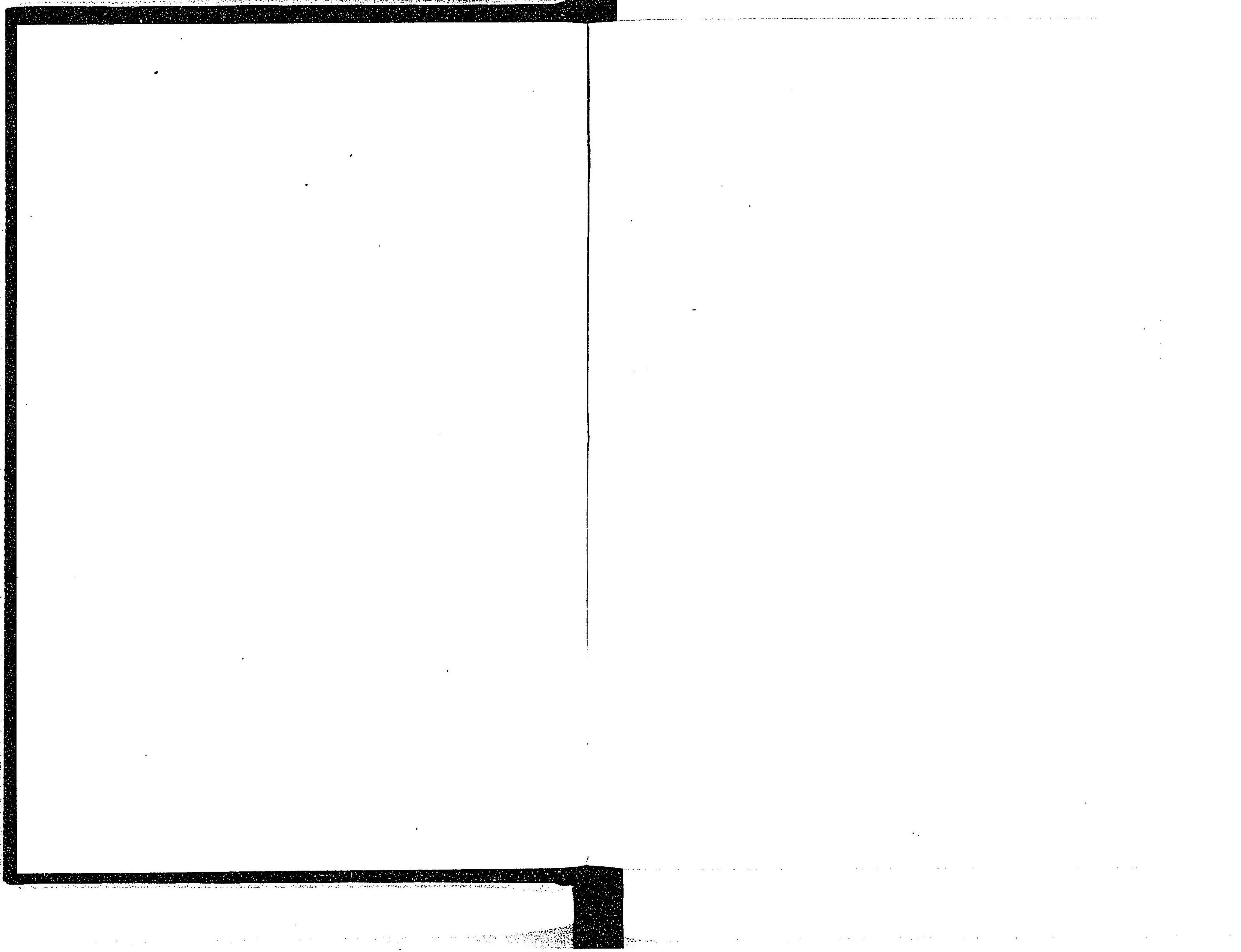
THE JAPAN BOOK AND TRACT SOCIETY,

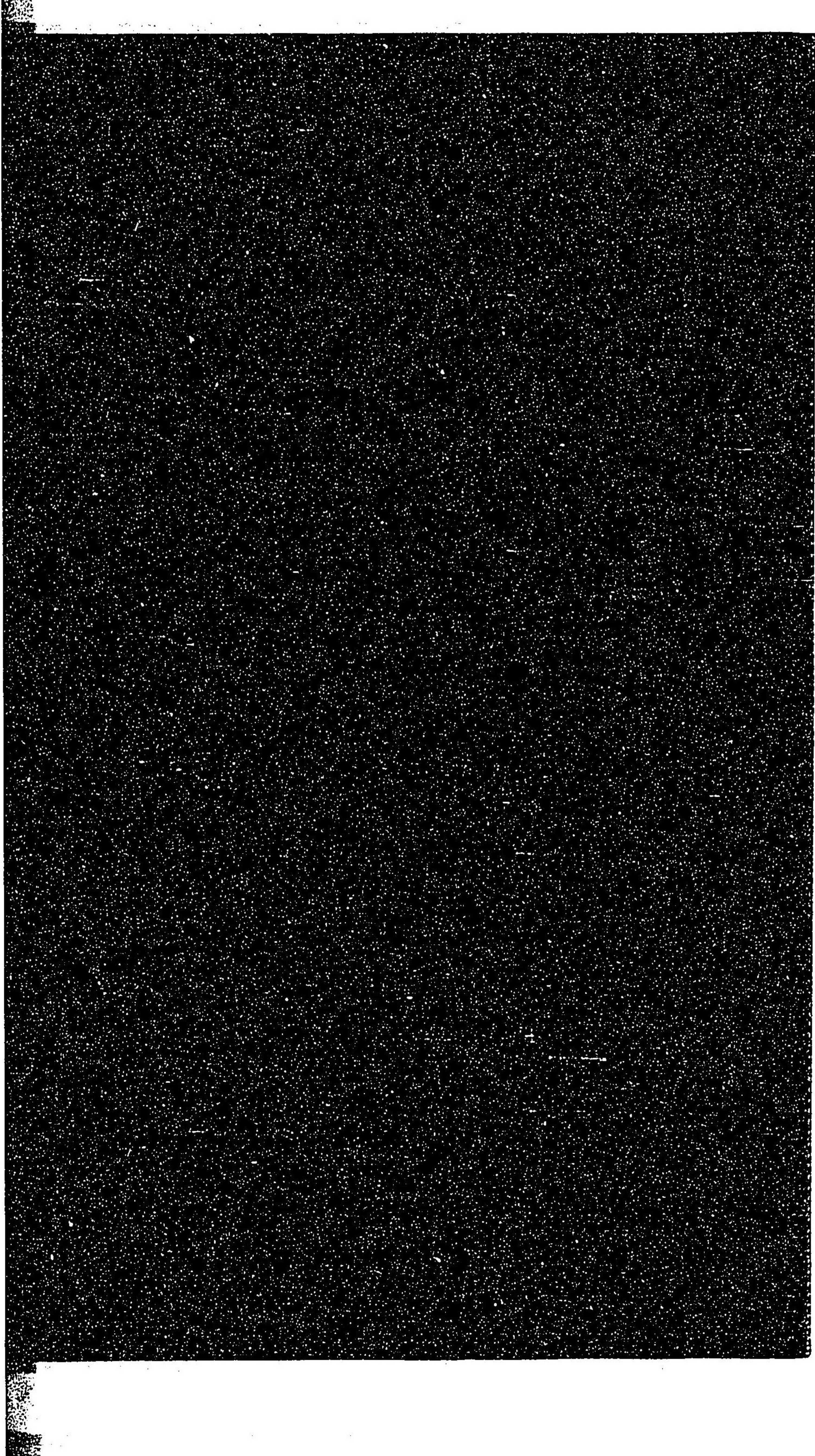
TŌKYŌ.

—
1903

CONTENTS.

CHAPTER I.	
Introduction	I
CHAPTER II.	
Abraham to Joseph	3
CHAPTER III.	
Moses	10
CHAPTER IV.	
The Exodus	15
CHAPTER V.	
The Red Sea	23
CHAPTER VI.	
Passover Teachings	28
CHAPTER VII.	
Wilderness Experiences	36
CHAPTER VIII.	
Waiting for the Christ	45
CHAPTER IX.	
The Law and the Prophets fulfilled in Christ	57





020506-000-7

318-123

基督教乃由来

ウィリヤム・ジョージ・スミス/著

M36

ABI-0317

